

# 総目次

## 公研セミナー

1963年9月・10月	正田 彬	独禁法と国際競争力
11月	宮下 武平	新産業秩序と体制金融
12月	金沢 良雄	物価規制について
1964年1月	大熊 一郎	物価構造について
2月	滝田 実	物価と賃金
3月	下村 治	日本経済の成長力
4月	篠原三代平	転換期の核心を掴む
5月	鈴木 秀雄	外資流入の姿勢
6月	向坂 正男	倍増中期手直しの問題点
7月	中村 孝士	開放体制下の景気循環
8月	木村禮八郎	長期経済政策への提唱
9月	神野 正雄	国際流動性と日本経済
10月	大来佐武郎	世界景気の動向
11月	磯村 英一	地域開発の方向性
12月	庄司竜一郎	金融正常化の諸問題点
1965年1月	竹中喜滿太	日本の産業集中の実態と方向
2月	坂本二郎・中野拙三	経済成長と人間尊重
3月	伊藤 長生	「利潤」について
4月	三木 邦男	国際通貨の展望と日本経済
5月	佐橋 滋	今後の産業政策と日本経済
6月	鈴木 治雄	経営について
7月	前川 憲一	不況中の財政の方向
8月	金森 久雄	「新経済白書」と景気判断
9月	堀越 禎三	財界は公債をどう考える
10月	穴戸駿太郎	不況後の日本経済の新ビジョン
11月	湊 守篤	不況後の企業体質をどう考える
12月	木内 信胤	不安に答える
1966年1月	大河内一男	景気短期見通し — マンパワーズと日本経済への要望
2月	小坂徳三郎	経済を持つて歩こう
3月	両角 良彦	今後の産業体制と政府企業間の矛盾
4月	竹内 一郎	国際金利の上昇と日本への影響
5月	梶浦 英夫	最近の設備投資の動向
6月	井深 大	企業における研究開発と経済成長
1967年1月	西島 芳二	政治はどう動く — より大きな発展のために
2月	内田 忠夫	新しい経済の方向
3月	北野 重雄	42年度の経済と新経済計画 — 経済成長と「物価」
4月	谷村裕・小島英敏	資本自由化と「産業体制」 — 西欧における産業体制の近代化について
5月	青葉 輪於	デフレ・インフレの谷間をゆく
6月	土屋 清	アメリカ経済を診断する — これからの地域開発の問題点と進め方
7月	鶴見 清彦	ケネディ・ラウンドと日本への影響
8月	宮崎 勇	国際収支の赤字と景気動向
9月	田中 角栄	都市再開発の問題点と景気動向
10月	大木 穆彦	日本経済外交の姿勢
11月	村上孝太郎	財政の新しい方向 — 硬直化と今後の取組み方
12月	辻村江太郎	経済成長と労働力
1968年1月	堀江 薫雄	ポンド切り下げの後にくるもの
2月	外山 茂	こうなる今年の日本経済
3月	川又 克二	ドル防衛と対日投資
4月	宮沢 鉄蔵	米国輸入課徴金の日本への影響と対策
5月	橋本 清	ベトナム平和とドルの将来
6月	大慈弥嘉久	国際競争と企業再編成の方向
7月	翠川 鉄雄	景気動向と締め政策の是非
8月	牛場信彦・田中洋之助	日本経済外交の現実と方向 — これからの内外金融の動向
9月	池内 得二	物価問題への指針
10月	八塚 陽介	都市問題の焦点
11月	川島 博	社会資本の不足と土地対策
12月	星埜 保夫	設備投資拡大と来年度の景気見通し
1969年1月	北川 一栄	情報革新と日本経済
2月	今井 勇	ニクソン政権の経済政策 (対日経済政策を含む)
3月	林 栄夫	44年度財政政策と物価 — 物価抑制は果して可能か
4月	佐伯 喜一	世界の軍事戦略について
5月	飯野 匡	世界的高利時代の背景を検討する
6月	江森 盛久	これからの世界貿易はこうなる
7月	熊谷 尚夫	新段階に入った今後の経済政策のあり方
8月	野田 信夫	国際化時代の企業経営の効率化
9月	矢野 智雄	赤信号の景気はどう動く
10月	小倉 武一	新しい総合農政の方向
11月	細見 卓	来年度の税制改正はどうなるか
12月	伊原 隆	国際経済の変転と日本経済の成長
1970年1月	武田 豊	自己開発について
2月	牧野 昇	新しい「産業未来図」を描く
3月	村上 茂利	これからの労働力対策
4月	内田 藤雄	マルク切上げ後のドイツ経済の問題点とその方向
5月	後藤 達郎	アメリカの景気後退と日本経済への影響
6月	松本 俊一	中国問題への認識と展望
7月	藤井立・八幡輝雄	日中交渉のなから — これからの景気は果たしてくるのか
8月	徳永 久次	これからの日米関係のゆくえ
9月	嘉治 元郎	環境問題とGNP
10月	芦矢栄之助	これからの国際金融情勢と円切り上げ
11月	鳩山威一郎	来年度の財政政策の方向とポイント
12月	山中 宏	世界的インフレの方向と影響
1971年1月	小島英敏・斉藤倉之助	71年の景気を占う
2月	宮崎 弘道	71年の「世界経済はどう動く」
3月	下村 治	71年の経済成長率をどうみる
4月	下河辺 淳	これからの「立地」をどう進めるか
5月	武者小路公秀・津和義昌	新しい米中関係の展望
6月	相沢英之・吉田達雄	高福祉経済において社会資本をどう充実させるか
7月	内野 達郎	日本経済の成果と問題点
8月	柏木 雄介	黒字累積と円のゆくえ
9月	石川 滋	中国経済の実力

1971年10月 両角 良彦 日米経済とこれからの産業政策  
11月 篠原三代平 日本経済が転換すべき方向  
12月 鹿野 義夫 不況の72年の日本、その経済政策はこうなる

1972年1月 竹内一郎・外山弘 こうなる72年の世界経済  
2月 山田春・今井勇・長島忠雄 今年の景気はいつ、どこまで回復する  
3月 高木文雄・宇田川璋仁 これからの経済運営と税制の方向

4月 林信太郎・渡辺康 多国籍企業の実態と、日本へのこれからの影響  
5月 熊谷典文・正田彬

6月 藤井丙牛・力石定一 高福祉社会と企業  
7月 大槻文平・正村公宏 これからの労働問題  
8月 中曽根康弘 これからの新しい経済運営  
9月 宇沢 弘文 新しい経済

10月 岩佐 凱実 公共経済学からのアプローチ  
11月 高橋 弘篤 アメリカ・中国・日本  
12月 矢野 智雄 長期国土建設の考えかた

1973年1月 館龍一郎・水上達三 73年の課題  
2月 金森久雄・宮崎一雄 転機にたつ日本経済とインフレ問題  
3月 井上保・出光計助・間瀬直三 これからのエネルギー資源問題を考える

4月 宮崎弘道・清水嘉治 アメリカの世界経済政策  
5月 安川七郎・神田延祐 最近の金融問題とその性格

6月 友納武人・富永健一 地域社会と企業  
7月 梅本純正・酒井正利・北野利信 新しい社会と企業のあり方  
8月 小島英敏・後藤新一・清田晋亮 インフレ見通しと国民生活

9月 田実 涉 日中通商関係のすずめ方  
10月 山形 栄治 新しいエネルギー政策の方向  
11月 橋口 収 49年度予算の方向とポイント  
12月 並木信義・長島忠雄・服部盛栄 エネルギー問題と産業政策

1974年1月 両角良彦・館龍一郎・内野達郎 74年の経済見通し  
2月 細見卓・木村禎八郎 74年の国際経済の動向

1975年1月 市川 誠 これからの労働運動の考え方と進め方  
4月 小松勇五郎・宮崎勇 エネルギー高価格時代の産業構造  
5月 内田忠夫・吉田太郎 インフレと経済政策  
6月 高木 文雄 法人税の新しい考え方  
7月 鈴木 秀雄 国際通貨問題と世界経済  
8月 保利 茂 政党の近代化とその展望  
9月 後藤新一・宮崎弘道

10月 宮崎 仁 『危機』の世界経済を予測する  
11月 竹内 道雄 長期的視野にたつた新しい経済計画の考え方  
12月 正田彬・平賀潤二 独禁法改正と日本経済

1976年1月 稲村 光一 51年度の日本経済と財政  
2月 金森 久雄 76年の景気動向  
3月 尾本 信平 これからの企業経営と備蓄問題  
4月 宇都宮徳馬 民主政治の崩壊とその再建  
5月 小島 英敏 日本経済と物価問題  
6月 増田 実 エネルギー政策の基本方向  
7月 下河辺淳・小谷善四郎 国土利用の現状と長期政策

8月 天谷 直弘 構造危機と日本の産業政策  
9月 河野 謙三 民主政治の危機を打開するため  
10月 富塚 三夫 これからの労使関係の方向  
11月 藤岡真佐夫 『田問題』と日本経済  
12月 吉瀬 維哉 五十二年度予算のポイント

1977年1月 馬場 正雄 77年日本経済の課題  
2月 倉成 正 これからの経済運営のポイント  
3月 堀 昌雄 野党が診断する日本経済  
4月 木村 俊夫 世界経済の動向と外交政策の課題  
5月 松野 頼三 民主政治の危機と再生  
6月 橋本 利一 エネルギーをめぐる内外情勢と課題  
7月 岩田幸基・田島敏弘 設備投資の動向と景気見通し  
8月 石田博英・細野正 安定成長と雇用  
9月 濃野 滋 安定成長下の産業政策  
10月 増田 実 国際環境の変化と通商政策  
11月 太田 薫 政治体質の改善と国民生活  
12月 長岡 実 来年度予算と財政政策のポイント

1978年1月 佐々木 直 日本経済の現状と見通し  
2月 麻生 良方 78年国民生活と政治の使命  
3月 中村 隆英 日本経済の成長力と内外バランス  
4月 細見 卓 円高と世界経済の見通し  
5月 並木 信義 景気回復の基調をさぐる  
6月 藤岡真佐夫 アメリカ経済と日本の対応  
7月 下河辺淳 国土開発の現状と将来  
8月 河本 敏夫 景気見通しと経済運営  
9月 小坂善太郎 日中条約と内政・外交の課題  
10月 矢野俊比古 日中条約と内政・外交の課題  
11月 岩田幸基・小島正興 国際収支動向と景気見通し  
12月 長岡 実 五十四年度予算と財政再建

1979年1月 天谷 直弘 『新経済社会七カ年計画』のポイント  
2月 喜多村治雄 日中経済の現状と将来  
3月 稲山 嘉寛 80年代労働運動の課題と動向  
4月 宮田 義二 世界経済見通しと通貨通商問題  
5月 細見 卓 国際協調と日本の役割  
6月 牛場 信彦 新経済環境下の成長と物価  
7月 佐々木孝男 80年代の世界経済と日本外交の指針  
8月 宮崎 弘道 これからの経営のポイントと理念  
9月 岩田 式夫 インフレ要因と国民生活  
10月 小島英敏・中林貞男 インフレ要因と国民生活  
11月 武貞岩夫 スローダウンするアメリカ経済と国際通貨  
12月 金森 久雄 五十五年の日本経済とその活力

1980年1月 田中 敬 五十五年度予算のポイントと財政再建  
2月 山田敬三郎 エネルギー情勢の見通しと日本の対応  
3月 佐々木良作 八十年代の政治課題と展望  
4月 宇佐美忠信 神代和欣 安定成長下の賃金・雇用・定年  
5月 園田 直 変質する春闘の中で  
6月 矢野俊比古 中東情勢とエネルギー外交  
7月 藤井直樹・阿達哲雄 エネルギー高価格時代の産業政策  
8月 河野 洋平 物価情勢と景気見通し  
9月 河本 敏夫 八十年代の政治・経済政策  
10月 粟屋 敏信 これからの公共事業と国民生活  
11月 中川 一郎 これからの科学技術行政と原子力  
12月 森山 信吾 エネルギー政策と内外情勢

1981年1月 深田 信宏 81の世界経済と日米・日欧関係  
2月 松下 康雄 財政事情と五十六年度予算のポイント  
3月 岩佐 凱実 レーガンの政策と日米経済  
4月 澄田 智 最近の景気動向と金融情勢  
5月 法眼 晋作 世界情勢と日本の対応  
6月 小金 芳弘 これからの米・ソ関係と日本  
7月 小山 茂樹 病める欧州の経済・社会  
8月 竹下 登 最新中東情勢とエネルギー  
9月 高木 文雄 現代政治の課題と展望  
10月 藤原 一郎 財政再建下の公共企業体のあり方  
11月 加藤 隆司 内外経済情勢と産業政策  
12月 高橋 元 カの高金利を中心として  
1982年1月 牛場 信彦 財政再建と五十七年度予算のポイント  
2月 金森 久雄 『日米・日欧経済摩擦』と日本の対応  
3月 小松 国男 五十七年の日本経済を展望する  
4月 佐々木孝男 最近の石油情勢とエネルギー政策  
5月 谷村 昭一 82春闘とその政策課題  
6月 稲山 嘉寛 経済整合性と賃金・雇用  
7月 山野 正登 21世紀日本の経済社会長期展望  
8月 大場智満・鳴沢宏英 科学技術活動の将来と課題  
9月 科学技術活動の将来と課題  
10月 大場智満・鳴沢宏英 科学技術活動の将来と課題  
11月 科学技術活動の将来と課題  
12月 科学技術活動の将来と課題

1983年1月 金丸 信 これからの政局と政治倫理  
2月 井川 博 日本経済の動向と景気対策  
3月 J・C・アベグレン 日本経済環境と企業経営  
4月 橋口 収 独禁法の理念と日本経済の活力  
5月 誠一 これからの政治理念と倫理  
6月 山口 光秀 五十八年度予算のポイント  
7月 杉山 和男 日本経済の課題と通商政策  
8月 村田 良平 世界経済の現状と日本外交  
9月 豊島 格 行政改革と日本経済  
10月 亀井 正夫 原油値下げ後のエネルギー情勢  
11月 谷村 昭一 G・R・ベーカー これからの日米経済関係  
12月 関本 忠弘 一九八〇年代経済社会の展望と指針

1984年1月 真藤 恒 情報技術革新と経済社会  
2月 田中誠一郎 I・N・Sの将来像  
3月 平沢 貞昭 五十九年度の経済見通しと政策  
4月 本野 盛幸 五十九年度予算のポイント  
5月 B・モリトール わが国をめぐる国際経済情勢  
6月 佐上 武弘 ロンドン・サミットに向けて  
7月 小此木彦三郎 西ドイツの経済政策  
8月 高秀 秀信 金融自由化と円・ドル問題  
9月 藤尾 正行 これからの通商産業政策  
10月 福田 幸弘 今後の政局と政策課題  
11月 守屋 友一 これからの税制と執行  
12月 若杉 和夫 景気の状態と中期の課題  
1985年1月 森山 信吾 これからの通商問題と日米関係  
2月 的場 順三 情報化社会と第二電電  
3月 大場 智満 六十年年度予算のポイント  
4月 柴田 益男 国際金融情勢と通貨  
5月 松尾泰一郎 最近の石油情勢とエネルギー政策  
6月 手島 冷司 私が見てきた中国  
7月 小長 啓一 ポン・サミットとこれからの経済外交  
8月 貿易摩擦と通商産業政策

1986年1月 國廣 道彦 86年のアメリカ経済と日本の経済外交  
2月 小粥 正巳 61年度予算のポイント  
3月 谷村 昭一 61年の経済見通しと政策  
4月 宮崎 弘道 ヨーロッパの経済動向と日米欧関係  
5月 野々内 隆 石油価格の動向とエネルギー政策  
6月 渡辺 喜一 最近の金融情勢と通貨  
7月 香西 泰・水谷 研治 下期の景気見通しと政策のポイント  
8月 岩田 式夫 私の経済観 ―企業をとりまく環境と税制改革  
9月 福川 伸次 経済構造をめぐる構想と対応策  
10月 H・コータツイ 日英関係の回顧と将来  
11月 大竹 宏繁 景気の状態と政策のポイント  
12月 大場 智満 国際金融・通貨情勢とアメリカ経済

1987年1月 石川 六郎 大都市問題と民間活力  
2月 G・フィールズ 国際経済環境と転機にたつ日本の経営  
3月 角谷 正彦 六十二年度予算のポイント  
4月 飯田庸太郎 重厚長大産業の未来  
5月 池田 迪彦 内外経済情勢と経済外交の課題  
6月 細見 卓 構造調整と通貨見通し  
7月 井上 章平 建設行政の長期展望  
8月 吉富 勝 世界経済の現状と政策調整  
9月 那須 翔 21世紀へ向けての企業経営の展開  
10月 大河原良雄 これからの日米外交の課題  
11月 濱岡 平一 最近のエネルギー情勢と政策のポイント  
12月 尾崎 護 ポイント

1988年1月 武田 豊 税制改革の視点と間接税  
2月 西垣 昭 鉄鋼業の展望と日本経済  
3月 高木 文雄 六十三年度予算のポイント  
4月 高木 文雄 これからの都市再開発を考える  
5月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1989年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1990年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1991年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1992年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1993年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1994年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1995年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1996年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1997年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1998年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1999年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2000年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2001年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2002年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2003年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2004年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2005年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2006年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2007年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2008年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2009年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2010年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2011年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2012年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2013年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2014年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2015年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2016年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2017年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2018年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2019年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2020年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2021年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2022年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2023年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2024年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2025年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2026年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2027年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2028年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2029年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2030年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2031年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2032年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2033年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2034年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2035年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2036年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2037年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2038年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2039年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2040年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2041年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2042年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2043年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2044年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

2045年1月 高木 文雄 街づくり、はお任せ下さい

1988年4月	赤羽 隆夫	六十三年の景気見直し ― シャロキアン景気探偵はこうみる
5月	高橋 進	建設行政の諸問題
6月	黒田眞／J・C・アベグレ	市場参入問題を含めて
7月	星野 進保	日米通商摩擦の行方
8月	牛尾 久彦	経済運営五カ年計画のポイント
9月	岡崎 治郎	国際化時代の企業経営
10月	鎌田 吉郎	日米関係の再構築と外交課題
11月	J・ホワイトヘッド	これからのエネルギー政策と原子力
1989年12月	黒沢 洋	これからの日欧関係を考える ― E.C統合問題を含めて
1月	佐藤 嘉恭	内外金融情勢と景気見直し
2月	篠沢 恭助	89年のアメリカ経済と日米関係
3月	進藤 貞和	平成元年度予算のポイント
4月	杉山 弘	二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用
5月	J・キャッシュマン	内外経済動向と通商政策
6月	亀井 正夫	欧州への企業進出と投資摩擦
7月	A・ファンアフト	政治・経済・社会改革の指針
8月	水谷研治・吉田春樹	92 E.C統合と日・E.C関係
9月	内海 孚	最近の産業動向と景気見直し
10月	田川誠一・菅直人	好調景気の転換点をさぐる
11月	山本 雅司	内外金融情勢と通貨
12月	佐波 正一	党連合への道
1990年1月	田中 努	国民の審判にどう応える
2月	寺村 信行	エネルギーの長期需給見直しと原子力
3月	西廣 整輝	国際化時代の企業戦略
4月	春名 和雄	内外経済動向と日本経済の展望
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	冷戦構造の変容と日本の防衛
7月	児玉 幸治	急展開する国際情勢と日本の役割
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1991年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1992年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1993年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1994年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1995年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1996年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1997年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1998年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1999年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
2000年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
2001年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
2002年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	平成二年度予算のポイント
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
7月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
8月	児玉 幸治	東・西社会主義国の変革の中で
9月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化
10月	児玉 幸治	日米構造協議とこれからの通商産業政策
11月	山本 雅司	東・西社会主義国の変革の中で
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略

1995年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの
4月	行天 豊雄	九五年の世界経済と金融・通貨情勢
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来
6月	L・A・チジョー	ロシアの現状とロ日関係
7月	細川 恒	WTO体制下の通商政策と日米関係
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネスマンが見た日本経済
9月	加藤 絃一	これからの政局と政策課題
10月	船田 元	政局の焦点と政治課題
11月	藤井 治芳	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン
12月	清家 篤	高齢化時代の雇用・賃金
1996年1月	土志田征一	新経済計画のポイント
2月	林 正和	平成八年度予算と財政の現状
3月	赤羽 隆夫	景気の方針を探る
4月	江崎 格	これからのエネルギー政策と原子力
5月	椎名 武雄	経済の再活性化に向けて
6月	牧野 力	21世紀に向けた産業政策と構造改革
7月	栗山 尚一	これからの日米関係と外交の課題
8月	鳩山由紀夫	新しい政治潮流の創造に向けて
9月	諸井 虔	規制緩和・地方分権をどう推進する
10月	隅谷三喜男	高齢化時代をどう生きる
11月	糠谷 真平	景気の減速はあるか
12月	三田 勝茂	これからの日本経済を展望する
1997年1月	江尻宏一郎	21世紀に向けての企業経営
2月	溝口善兵衛	今後の自由主義経済の展望
3月	荒木 浩	平成九年度予算と財政の現状
4月	渡辺 利夫	21世紀の日本の経済社会と電気事業
5月	伴 襄	東アジア経済の新潮流を読む
6月	伴 襄	公共事業のあり方と建設行政
7月	J・ズムワルト	構造協議とこれからの日米経済関係
8月	林 貞行	サミット後の世界経済情勢と日本
9月	真嶋 一男	公共投資十カ年計画の基本理念
10月	鳴澤 宏英	国際金融情勢と景気見直し
11月	緒方謙二郎	中東・東欧・アフリカ経済とインフラ懸念
12月	牛島 俊明	中東情勢とエネルギー政策
1998年1月	稲葉 興作	91年の経済展望
2月	細川 興一	景気は転換点を迎えたか？
3月	A・ボージス	平成三年度予算のポイント
4月	石 弘光	平成三年度予算の再建と改革のシナリオ ― ペレストロイカへの行方
5月	近藤 茂夫	紛争後の中東問題と世界政治の新構図
6月	八城 政基	地球環境問題と日本の対応
7月	佐藤 文夫	グローバル化後の日ソ関係
8月	G・S・フクシマ	最新の景気動向と金融政策
9月	嶋中 雄二	誤解される日本人
10月	鷲尾 悦也	国際化の中の日本の進路と企業の役割
11月	大場 智満	国際化時代の通商産業政策
12月	本間 正明	当面する諸問題
1999年1月	堀田 力	九二年の日本経済を展望する
2月	塩谷 篤郎	安定成長への移行は可能か
3月	塩谷 隆英	平成四年度予算のポイント
4月	原口 幸市	日米関係の新たな発展に向けて
5月	福井 俊彦	その課題と対応
6月	K・カルダー	景気の現状とその転換点をさぐる
7月	亀井 静香	景気の現状と展望
8月	福井 俊彦	この転換点をどう迎えるか
9月	G・S・フクシマ	この転換点をどう迎えるか
10月	嶋中 雄二	この転換点をどう迎えるか
11月	大場 智満	この転換点をどう迎えるか
12月	本間 正明	この転換点をどう迎えるか
2000年1月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
2月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
3月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
4月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
5月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
6月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
7月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
8月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
9月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
10月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
11月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
12月	武藤 敏郎	この転換点をどう迎えるか
2001年1月	河野 博文	この転換点をどう迎えるか
2月	齋藤精一郎	この転換点をどう迎えるか
3月	丹呉 泰健	この転換点をどう迎えるか
4月	寺島 実郎	この転換点をどう迎えるか
5月	高橋 進	この転換点をどう迎えるか
6月	常盤 文克	この転換点をどう迎えるか
7月	M・G・モンターニ	この転換点をどう迎えるか
8月	岩田 一政	この転換点をどう迎えるか
9月	石川 薫	この転換点をどう迎えるか
10月	渡辺 喜美	この転換点をどう迎えるか
11月	小川 和久	この転換点をどう迎えるか
12月	藤田 紘一郎	この転換点をどう迎えるか
2002年1月	佐々木 毅	この転換点をどう迎えるか
2月	津田 廣喜	この転換点をどう迎えるか
3月	笹森 清	この転換点をどう迎えるか
4月	岩田 規久男	この転換点をどう迎えるか
5月	太田 宏次	この転換点をどう迎えるか
6月	畑村 洋太郎	この転換点をどう迎えるか
7月	片山 善博	この転換点をどう迎えるか

2002年8月	中嶋 嶺雄	中国とのつきあい方を再考する ―瀋陽事件後の日中関係―
9月	伊藤 元重	政治の責任
10月	塩崎 恭久	小泉改革と日本外交
11月	伊豆見 元	小泉訪朝と日朝関係の今後
12月	村上陽一郎	日本の科学・技術の光と影 ―ノーベル賞連続受賞の評価と課題―
2003年1月	嶋中 雄二	景気の現状と展望 ―小泉内閣の経済政策をどう考える―
2月	牧野 治郎	平成十五年度予算のポイント
3月	坂村 健	ユビキタス社会と日本のITのゆくえ
4月	吉川 洋	構造改革のよみかた ―金融システムの安定と日本経済―
5月	猪瀬 直樹	正念場の小泉改革 ―道路公団問題と構造改革の行方―
6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 ―国づくりと日本の「戦後志」―
7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢
8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交
9月	山中 秀征	新しい政治を考える
10月	山折 哲雄	グローバル化と日本人の心 「景気回復」は本物か…?
11月	齋藤精一郎	マニフェスト選挙とこの国の進路
12月	北川 正恭	教育と政治を考える ―国立大学法人化を前に―
2004年1月	佐々木 毅	平成十六年度予算のポイント
2月	杉本 和行	税制はいかにあるべきか
3月	石 弘光	日本はどこへ行くのか
4月	野中 広務	政治の現在・この国の将来
5月	酒井 啓子	イラク復興のゆくえ
6月	前田又兵衛	ひとつくりの発想
7月	伊藤 隆敏	アメリカ経済と日本
8月	内藤 正久	世界の中で日本とアジアのエネルギーを考える
9月	枝野 幸男	政権交代への展望
10月	矢吹 晋	中国の「反日感情」と日中関係
11月	猪口 邦子	国連・軍縮・日本
2005年1月	岩井 克人	日本の会社・アメリカの会社 ―二十一世紀の資本主義―
2月	寺島 実郎	ブッシュ再選後の日米関係
3月	溝口善兵衛	平成十七年度予算のポイント
4月	山崎 正和	世界経済はどう動くか
5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 ―三位一体改革―
6月	小島 朋之	地方の視点
7月	鎌田 実	衝突する日中関係のゆくえ
8月	荒井 寿光	いのちと健康と企業
9月	石 弘光	日本の知的財産戦略
10月	森本 敏	所得税改革の基本的方針
11月	岸井 成格	日本の安全保障と外交政策
12月	加藤 紘一	小泉政治と日本のゆくえ ―これからの日本の課題―
2006年1月	岡村 正	企業の活力と個が光るイノベーション経営
2月	鈴木 正規	平成十八年度予算と財政
3月	築館 勝利	経営計画の変遷と電気事業のこれから
4月	田中 均	東アジア最新情勢と日本外交
5月	十市 勉	21世紀のエネルギー地政学と日本の戦略
6月	岩田 一政	金融政策運営と日本経済
7月	袴田 茂樹	ロシアにおける大国主義の復活とエネルギー戦略
8月	菅 直人	政権交代への道
9月	浜野 潤	骨太の方針06
10月	小平 信因	―日本経済の新たな挑戦―
11月	岩見 隆夫	新・国家エネルギー戦略と原子力
12月	森下 洋一	新政権の課題と07年の政局
2007年1月	松尾 新吾	地域と共生する電力事業
2月	真砂 靖	―ブルサ―マル実施に向けて
3月	小柴 昌俊	平成十九年度予算のポイント
4月	マイケル・J・グリーン	ニュートリノ、ニュートリノ、そしてニュートリノ
5月	額賀福志郎	東アジア情勢と日米の役割
6月	柴田 明夫	アジアの安定と日米同盟 ―日本の政治・外交・安全保障資源インフレ―
2008年1月	木村 滋	日本の宇宙戦略への提言 骨太の方針2007
2月	木下 康司	―新しい日本の国づくりに挑む―
3月	袴田 茂樹	参院選後の政治と政局
4月	水野 和夫	アメリカ経済と国際金融
5月	塩川正十郎	エネルギー・環境問題から見たポスト京都議定書の動き
6月	小川 和久	日中関係の現状と展望
7月	望月 晴文	―経済・外交・政治―
8月	黒田 東彦	中越沖地震の影響と経営課題
9月	橋本 五郎	―販売営業の取り組み―
10月	片山 善博	平成二十年予算と財政
11月	押谷 仁	ブーチン・メドベージェフ二頭政権の行方
12月	寺島 実郎	金融経済の肥大化と資源・食糧の価格革命
2009年1月	齋藤 紀彦	政治の今、日本の将来 ―日本が直面する安全保障の新局面―
2月	香川 俊介	エネルギー・原子力・環境
3月	武藤 敏郎	インフレのアジアと日本の役割
4月	藤原 帰一	政治の本分
5月	畑村洋太郎	地方分権改革への提言
6月	鈴木 琢磨	新型インフルエンザと企業の危機管理
7月	佐々木 毅	世界の構想転換と日本
8月	小川 和久	―新たな座標を求めて―
9月	大田 弘子	今後の地球温暖化対策に向けて
10月	孫崎 亨	―低炭素技術立国への挑戦―
11月	星 浩	平成二十一年度予算と財政の課題
12月	中曾根康弘	金融危機と09年の世界経済
2010年1月	丹羽宇一郎	国際政治の新地図
2月	稲垣 光隆	日本の回復力
3月	久保 文明	―復活を実現する考え方―
4月	孫崎 亨	北朝鮮を読み解く
5月	畑村洋太郎	「政党政治の精神」を考える
6月	鈴木 琢磨	日本の競争力＝平和力
7月	佐々木 毅	日本経済 危機をいかに脱却するか
8月	小川 和久	日本の安全保証と日米同盟
9月	大田 弘子	日本政治の展望
10月	孫崎 亨	橋本五郎 政治の要諦とは何か
11月	星 浩	平成二十二年予算と財政
12月	中曾根康弘	鳩山政権と日米関係

2010年4月	竹森 俊平	2010年は勝負の年 ―世界はどうなる？ 日本はどうなる？―
5月	澤 昭裕	地球温暖化対策 ―冷静で合理的な議論のために―
6月	塩川正十郎	政治の将来
7月	猪木 武徳	世界の中の日本経済
8月	北岡 伸一	その来し方行く末を考える
9月	小野 善康	日米中の三国関係を考える
10月	山折 哲雄	成熟社会の経済政策
11月	西田 厚聰	死について考える
12月	藻谷 浩介	イノベーションと成長
2011年1月	清水 正孝	現役減少・高齢者激増時代の日本の針路
2月	中原 広	電気事業を取り巻く環境変化と今後の経営の方向性
3月	藪中三十二	平成二十三年度予算と財政
4月	池内 恵	日本の直面する外交課題
5月	川口淳一郎	アラブ諸国でいま何が起きているのか？
6月	玉木林太郎	「はやぶさ」の軌跡と日本の独創力
7月	葛西 敬之	国際金融の動きと世界経済への影響
8月	小峰 隆夫	変革期におけるリーダーシップの要件
9月	御厨 貴	大震災と日本経済の行方
10月	国分 良成	震災復興と政治
11月	佐々木 毅	中国の現状と日米中関係
12月	望月 晴文	政権党の条件
2012年1月	久保 文明	エネルギー政策の今後
2月	羽深 成樹	アメリカはどこへ行くのか
3月	小川 和久	二〇一二年大統領選とその後
4月	寺島 実郎	平成二十四年度予算とその後
5月	澤 昭裕	米国の新国防政策を読む
6月	北岡 伸一	日本の自覚
7月	岩田 伸一	世界のダイナミズムの中で
8月	茅 陽一	いま、何を議論すべきなのか？
9月	一政	エネルギー政策をめぐる
10月	陽一	転換期の日本
11月	一政	内政と外交
12月	陽一	日本の金融政策を考える
2013年1月	谷内正太郎	被ばくと発がんの真実
2月	中尾 武彦	―放射線の正しい知識―
3月	山名 元	民主党政権とは何だったのか
4月	国分 良成	―いま政治に最も求められているもの―
5月	寺島 実郎	外交はいかにあるべきか
6月	白石 隆	世界経済の行方と国際金融
7月	山崎 正和	エネルギー安全保障と原子力
8月	佐々木 毅	第18回党大会以後の中国と日中関係
9月	小川 和久	平成二十五年度予算のポイント
10月	清家 篤	世界の構造転換と日本
11月	望月 晴文	―本場に議論すべきことは何か？―
12月	松元 崇	経済学は世界をどう変えたか
2014年1月	石破 茂	東南アジアと日本
2月	岡本 薫明	日本の将来
3月	宮家 邦彦	―教育問題を中心に―
4月	葛西 敬之	政治とは何か
5月	篠原 尚之	日本の安全保障と日米同盟
6月	袴田 茂樹	奴隷・公智・実学の視点で社会
7月	増田 優一	保障制度改革を
8月	佐藤 勝彦	エネルギー政策の長期不在を憂う
9月	秦 郁彦	アベノミクスと高橋財政
10月	高橋 泰三	政治の責任
11月	高橋 泰三	平成二十六年予算と財政の課題
12月	高橋 泰三	2022X年
2015年1月	加藤 清隆	中国の七つのシナリオ
2月	黒田 東彦	21世紀に求められるリーダーとは
3月	黒田 東彦	世界経済の
4月	黒田 東彦	メガトレンド―ミニトレンド
5月	黒田 東彦	クリミア併合と新たな国際秩序
6月	黒田 東彦	―日口関係への影響―
7月	黒田 東彦	地域活性化と社会資本整備
8月	黒田 東彦	宇宙はどのように生まれたのか
9月	黒田 東彦	インフレーション宇宙論とは
10月	黒田 東彦	歴史認識と歴史戦争
11月	黒田 東彦	―河野談話以後の日本とアジア―
12月	黒田 東彦	最近のエネルギー情勢について
2016年1月	三浦 瑠麗	最上の金融経済情勢と金融政策
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	運営
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2017年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2018年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2019年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2020年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2021年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2022年1月	三浦 瑠麗	政治の読み方
2月	三浦 瑠麗	政治の読み方
3月	三浦 瑠麗	政治の読み方
4月	三浦 瑠麗	政治の読み方
5月	三浦 瑠麗	政治の読み方
6月	三浦 瑠麗	政治の読み方
7月	三浦 瑠麗	政治の読み方
8月	三浦 瑠麗	政治の読み方
9月	三浦 瑠麗	政治の読み方
10月	三浦 瑠麗	政治の読み方
11月	三浦 瑠麗	政治の読み方
12月	三浦 瑠麗	政治の読み方

2017年5月	白石 隆	トランプ時代の外交政策 ―アジア太平洋地域を中心に地域に根ざす経営 〔東日本大震災を乗り越えて〕国際金融情勢と世界経済のゆくえ
6月	海輪 誠	
7月	浅川 雅嗣	
8月	遠藤 乾	欧州複合危機とその世界的含意 L N Gの今後とJ E R R Aの役割
9月	垣見 祐二	安倍長期政権の行方
10月	加藤 清隆	―日本周辺で何が起きているか？
11月	山極 壽一	野生の思考と未来の人材育成
12月	川島 真	習近平時代の中国を読む
2018年1月	小林 喜光	地球と共存する経営
2月	大鹿 行宏	平成30年度予算のポイントと財政の課題
3月	中山 俊宏	トランプ政権1年、異形の大統領の内政と外交
4月	柳瀬 唯夫	最近の通商政策と今後の方向性 〔E E P T O〕 脱炭素化で変革を迫られるエネルギー産業と電気事業の将来像
5月	岡本 浩	
6月	森 英介	日本の進むべき道 ―エネルギー・環境政策を中心として
7月	平岩 俊司	米朝会談後の北朝鮮情勢
8月	加藤 出	日本経済の新しい姿 ―キヤッシュユレス・フィンテック・超量的緩和の行方
9月	大隅 良典	オートファジー研究から見えてきた生命像
10月	兼原 信克	政治主導と安全保障政策
11月	津上 俊哉	米中貿易戦争の行方
12月	岩並 秀一	我が国を取り巻く現状と海上保安庁の対応

## 私の生き方

1970年3月	牧田興一郎	こういう、きたえられ方。 ―マイ・カンパニーのすすめ― 仕事のできる男は家ではよわい 素手でも日本を守ろう
4月	瀬川美能留	―上役をつかって仕事をしよう 風が吹いたら帆をあげよ
5月	長谷川周重	平凡だから順調に育った もつとも効率のあるものがそれをやれ
6月	大久保 謙	大事は軽く、小事は重く ―いばる奴は大きらいです― 《運命》の流れの中に
7月	田口 連三	驚く飛ばんことを思う 遠く飛ばんことを思う
8月	稲山 嘉寛	自分を追いつめ、追いつめる 《正論》を実行しよう
9月	藤野忠次郎	オポチュニストほど採算があわない人生はない
10月	中山 素平	流星の間に全力を集中せよ！ リーダーは汗みどろで献身せよ 心の遺産を残そう
11月	赤坂 武	―古人刻苦必ず盛大なり― 《ざかん坊》が修養つんで四十年 ―誠意なき人間社会は認めない― 《マイベース》で歩いた七十年
12月	広岡 知男	いい古いものは常に新しい ―人間に対する愛情の深い人が好き―
1971年1月	横山 通夫	ひとの身になって考える ―嘘をつかないゴヘイダ― ノードン・フルベースで守る ―そこからフアイトが湧く― 《経営はこれ統帥なり》 大衆のなかに生きる
2月	小林 宏治	おしめの下をくぐれ。―常に 大衆と接触することが大切 仕事を一心にやり、仕事を楽しむ―
3月	篠島 秀雄	信じたならそこへゆけ、真似は するな。
4月	宮崎 一雄	新しい軌道を君たちが敷け
5月	鈴木 二郎	
6月	三木 武夫	
7月	日向 方斉	
8月	松山 広	
9月	前田七之進	
10月	田實 渉	
11月	岡崎嘉平太	
12月	河野 文彦	
1972年1月	永田 敬生	
2月	太田 薫	
3月	大槻 文平	
4月	柴山 幸雄	
5月	東海林武雄	
6月	浅井 孝二	
7月	三宅 正一	《走馬燈》の絵のように…… ―地主の子から農民運動へ 大《ロマンチスト》たれ 池の中で鯨をもたせた。 大雪の朝故郷をあとに ―有限の命を《三昧教》で生きる 死んだら寝られる、生きてるうちに…… 《ノー！》と言える男になろう 心に故郷をもとろ 原爆の炎の下から 口に塩を突っこまれて ―ある政党政治家の履歴 十年きざみの風雪の中を 涙のある人を尊敬する 青年に注目している ―私の労働運動史とこれから 宇宙ととりくんで七十年 ―十億分の一秒まで計算できるようにになった 《自ら恃むにしがず》 ―東大出の村長からスタートした私の政治生活 ストライキ・紅燈の巷・行動的 人生 反主流の道を往く ―ステーツマンのいない国 《実証》をつらぬいて生きる ひとつの真理を求めて ―抑圧の中を生きる 破私立立 ―戦後の日中に生きる ある行政マンの生きた道 未知の世界に進歩がある 鳥驚ついで、うろつかず只この一筋 ひとりの画家の歩いた道 マイティーチャー・イズ・ネー チャー バウンダリー・コンデイション の入った答案 《現金、掛値なし》の人生 堅なれば墮せず わが道は一つ、もってこれを貫く
8月	中島 健蔵	
9月	森 八三一	
10月	佐々木更三	
11月	岩佐 凱美	夢を追って二十年走りつづけた ―敗戦の涙の中から日本復興を念って 或る政治家の歩いた道 《米騒動》から《戦後》まで 人生の滋養を摂取する 《習つておぼえていいもの》を作れ ―毎日三時間現場にもぐりこんだ青春 《作曲》にひかれ《魚》にひかれ七十年 生き残る組織 ―我執をもちつつ日々精進する 大衆の幸せを希って五十年 ―刑務所で勉強して弁護士に 《有る不尽の意志》―目いつば いやるな、ゆとりを持って 直視する ―そして冷静に判断する いわれなき差別の中から真実を 戦後三十年の労働史の中を歩く 人生の道標 歎異抄と聖書 ―みんなの倅せを念頭に生きる 《人間社会》の在る場所を見つけてよう 18ホールと洗面所 ―一打うて ばそれが人生のスタートだ
12月	船田 中	
1973年1月	津田 文吾	
2月	古賀 繁一	
3月	木村 武雄	
4月	正木 千冬	
5月	黒田 了一	
6月	黒田 誠	
7月	宮地 政司	
8月	赤城 宗徳	
9月	藤井 丙午	
10月	宇都宮徳馬	
11月	飛鳥田一雄	
12月	瀬長亀次郎	
1974年1月	川瀬 一貫	
2月	両角 良彦	
3月	橋本 栄一	
4月	高川 秀格	
5月	丸木 位里	
6月	小川 栄一	
7月	守屋 学治	
8月	中島 健蔵	
9月	森 八三一	
10月	佐々木更三	
11月	岩佐 凱美	
12月	船田 中	
1975年1月	鈴木 治雄	
2月	真藤 恒	
3月	末広 恭雄	
4月	榎田 久生	
5月	林 百郎	
6月	和歌森太郎	
7月	平井富三郎	
8月	金 達 寿	
9月	大木 正吾	
10月	保利 茂	
11月	家永 三郎	
12月	高木 文雄	
1976年1月	中村 寅吉	
2月	須丹礼アーネスト	
3月	矢野健太郎	
4月	清田 篤市	
5月	古川 晴男	
6月	蜷川 虎三	
7月	田部文一郎	
8月	金沢 嘉市	
9月	畑 和	
10月	宮崎 輝	
11月	横山 隆一	
12月	鄭 敬諤	

1977年1月 若月 俊一  
 〓或る農村医師が歩いた  
 〓センチメンタル・ヒューマニズムの半生

2月 楳取 正彦  
 〓煩惱の東京シニバイツァー伝  
 〓山谷、どんな人間も死んではいけない

3月 ヨゼフ・ピタウ  
 〓神父ピタウの半生

4月 三笠宮寛仁  
 〓戦後三十年のニッポン史断面  
 トモさんの現代日本批判  
 或る勝負師

5月 呉 清源  
 〓正徳・利用・厚生 of 人生

6月 平山 郁夫  
 〓卑弥呼墮壁幻想  
 〓シルクロード巡歴から高松塚壁画模写へ

7月 河井信太郎  
 〓或る検察官の記録  
 〓教育の責任は永劫に消えない

8月 楨枝 元文  
 〓アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行

9月 リツカルド・アマデイ  
 〓六十一年の道標

10月 市川 房枝  
 〓女性解放を闘いつづけて  
 〓風土病のルーツを追って

11月 佐々 学  
 〓弱虫一代

12月 向坂 逸郎  
 〓秩父二千年の血が辿った道

1978年1月 荒船清十郎  
 〓相場所、織屋そして政治家  
 いつでもほんとうのことを言える目  
 〓戦争に役立たなかつた一物理学者の半生

2月 伏見 康治  
 〓益裁は巨木になれない  
 〓柔と鉄を背負って生きる

3月 永野 重雄  
 〓和して同じからずの記

4月 永井 道雄  
 〓文相、記者、日教組からみた実践教育の記録  
 〓盤上に芸とロマンを描いて

5月 藤沢 秀行  
 〓翔べ！竹とんぼ

6月 宮田 義二  
 〓私の労働運動30年史

7月 太田 薫  
 〓私はこれからこう生きる  
 〓革

8月 伊藤 三郎  
 〓新都政のビジョン エトセトラ  
 ノミとカナヅチ

9月 三遊亭圓生  
 〓或る自治体リーダー実践録  
 〓仕事はウソをつけない

10月 ゲルト・クナツパー  
 〓漱石に教えられた。笑い  
 〓土。修行異人伝  
 〓バーナードリーチの奨めで益子へ

1979年1月 石田 博英  
 〓三十年間凝視つづけた  
 バクさんの〓自民党私史  
 〓無欲が合理〓を生きる

2月 川又 克二  
 〓静中ノ静ハ真ノ静ニ非ズ  
 〓慎重〓は経営の美德

3月 佐々木良作  
 〓私が刻んだ昭和経済史  
 わが彷徨

4月 岩尾 一  
 〓創造への情熱を秘めて  
 〓骨太の男

5月 田中伊三次  
 〓潮流に抗した官僚の記録  
 汗と涙はひとのためにながせ

6月 ヘンリー・ミトワ  
 〓願かけた十年刻みの人生

7月 多賀谷真稔  
 〓「侍の宗教」から禅の世界へ  
 反骨と妥協と  
 〓ボク山から歩き始めたある政治家の半生

8月 G・R・ペーカー  
 〓経営者の条件は、強い倫理観  
 〓御番所の息子、底辺に生きるの記  
 〓労働運動の原点を求めて

9月 富塚 三夫  
 〓外交秘話、のなかに生きて

10月 法眼 晋作  
 〓中ソ対立を予言した吉田ワマン

11月 松尾 金蔵  
 〓散歩、人生を謳う  
 〓檀一雄と飲み明かしたこともあった墨香と人生

12月 平賀 潤二  
 〓我が、町人的リベラリズム、伝  
 〓経営は教育なり……  
 〓非凡、への道標

1980年1月 菊地庄次郎  
 〓七口を拒んで逆境を生きる  
 〓首陽山に隠れて蔵も喰らわず

2月 岩田 式夫  
 〓いまふり返る私の昭和戦後政治史

3月 小坂善太郎  
 〓遠い道、真つ直な道、曲がった道  
 〓貧しさに教育されて労働運動四十年

4月 岩井 章  
 〓先愛後楽、に生きる  
 〓八十年代、リーダーの条件

5月 金森 政雄  
 〓現場で聞く

6月 今井 正雄  
 〓逆境で掴んだ、ほがらか人生

7月 亀井 正夫  
 〓六中観、修業法  
 〓原爆の中から生き還つて

1981年1月 竹下 登  
 〓おのが力と思ふなよ  
 〓師佐藤栄作から学んだ政治実践録

2月 植村 光雄  
 〓オープン・アイズ・オン・オール  
 〓トップ、は全力投球する

3月 海原 治  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 三村 庸平  
 〓泥まみれのすすめ

5月 坂田 栄男  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 大内 啓伍  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 戸崎 誠喜  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 山階 芳磨  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 小野 晋  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 佐波 正一  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山下 元利  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 生方 泰二  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1982年1月 末永 雅雄  
 〓背中インバルの碑がある  
 〓経営の極意、自分流、のすすめ  
 〓実証考古学、古代の声を聞く

2月 友納 武人  
 〓それはひとかけらの土器から始まった  
 〓清濁は合せ吞まず  
 〓県民本位、で尽くした二十年と現在

1982年3月 小林 大祐  
 〓挑戦の哲学、オイ、やつてみる！  
 〓首都防衛システムからコンビユーターへ

4月 武藤 山治  
 〓心の大尺になれ、の母の声を胸に生きる  
 〓池田勇人に、成長率日本一〓と言われた男の話  
 〓不安を抑えて奮いとれ

5月 関本 忠弘  
 〓プラン・ドウ・シーのチャレンジ人生  
 〓悔しかったら仕事しろ  
 〓学校創設以来の悪童の、型破り人生

6月 田中 勇  
 〓「武蔵」を超える

7月 末永聡一郎  
 〓エジソンになろうとした少年

8月 西堀栄三郎  
 〓パイプ、と真空管  
 〓「極限」に挑んだある実践主義者の軌跡

9月 稲葉 修  
 〓三足の井戸を掘る  
 〓浄化、にかけた政界三十年の地ならし人生

10月 阿部 栄夫  
 〓私は、我慢、する  
 〓幻の五輪選手が挑む、トータル経営術

11月 井植 薫  
 〓六文字の王道を往く  
 〓なせ、しからは、で師を超える

12月 本山 政雄  
 〓私は不器用に生きた  
 〓「モータヤマ」流市政の中心と値うち

1983年1月 桜内 義雄  
 〓首尾一貫する、の道理  
 〓政界四十年、宝塚五十年の足跡

2月 大堀 弘  
 〓わが反逆の実践録  
 〓「先見」にかけたエネルギー・ルートの

3月 金田一春彦  
 〓日本語遊々の記  
 〓啄木は私の母を困らせたわりの歌人

4月 八尋 俊邦  
 〓昼行燈、の、士魂商才

5月 進藤 貞和  
 〓匠、を育てる

6月 熊谷 典文  
 〓自ら学び、自ら動け、の修行伝  
 〓「野党連合」で柔道部に勝つた六高時代

7月 藤堂 明保  
 〓大陸流転の果てに……  
 〓和平工作から漢字の、親子、発見まで

8月 石川 六郎  
 〓もう一人の自分、はごまかせない  
 〓SLのかま焚きから始まった現場一筋

9月 植田 三男  
 〓辛抱と攻め、の哲学  
 〓御用聞きで住吉を回って、人物探求、燈籠無儘

10月 長洲 一二  
 〓貧困と抑圧の青春の中から

1984年1月 武田 豊  
 〓私は、マイナス選択、する  
 〓「作戦要務令」と行動的経営理念

2月 諸井 虔  
 〓電燈の下で飯が食える……  
 〓我が、闘争と妥協、の原点

3月 村井 勉  
 〓未だ、木鶏、たりえず  
 〓三尺の間、に創る、雨露離、人生

4月 宇佐美忠信  
 〓ニーズのあるところに我が道あり  
 〓カエルの解剖で卒倒して変わった人生

5月 伊藤 正  
 〓「何は損する、よしやつたれ」の、無法松経営

6月 山本 政弘  
 〓三つの転機が私を変えた  
 〓松岡駒吉の門をたたいた特攻隊員

7月 稲葉 興作  
 〓誠意、が国境を越えた  
 〓マレー

8月 春名 和雄  
 〓「収容所でみつけた、徳」の商道  
 〓師鈴木茂三郎に教えられた人間の味

9月 宮崎 辰雄  
 〓風に向かって進む  
 〓ターボチヤージャー男の、安定の力学

10月 山口 敏夫  
 〓その時、運、は後ろからついてきた  
 〓大豆で、ガラ、を食い、一度はクビに……

11月 陳 舜臣  
 〓都市を、経営する

12月 黒川 武  
 〓河本敏夫処分反対ストで姫路高を放り出される  
 〓雲を起す、龍、が往く

1985年1月 永山 時雄  
 〓激動期のアジアを見て政治に目覚める

2月 中村 卓彦  
 〓現代、を書きたい  
 〓歴史を廻り、いま出発点に立った

3月 駒井健一郎  
 〓能がないから「今」を一生懸命生きてきた  
 〓サッカードとお茶屋遊びに熱中した学生時代

4月 梶山 静六  
 〓枝葉に惑わず  
 〓白洲次郎にかわいがられた、天皇の生々流転

5月 猪熊 時久  
 〓書記長選敗北で目から鱗が落ちた  
 〓陸軍幼年学校、そして担ぎ屋から労働運動へ

6月 飯田庸太郎  
 〓風来門開、  
 〓虚心に、そして頑固に生きた八十余年

7月 橋口 収  
 〓いつも一枚の写真が私を見ている  
 〓サンセットの美学と創政会

8月 田辺 誠  
 〓反骨転々  
 〓横浜事件から金大中へ自由と真実を追い求めて

9月 西丸 震哉  
 〓ニューギニア食人種部落を往く  
 〓現地に人野蛮人と言われた男の話

10月 金丸 信  
 〓影武者、伝  
 〓脇、に徹して取り組んだ裏面史

11月 尾本 信平  
 〓有史有魂、日乗  
 〓マンカヤン鉱山で得た、人情に困境なし

12月 松尾泰一郎  
 〓或る、運命論者、の戦後史  
 〓凡庸の団結、で乗り切ったロッキード

1986年1月 長岡 実  
 〓おのが力と思ふなよ  
 〓師佐藤栄作から学んだ政治実践録

2月 梶井 健一  
 〓オープン・アイズ・オン・オール  
 〓トップ、は全力投球する

3月 館 豊夫  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 小林庄一郎  
 〓泥まみれのすすめ

5月 猪熊 時久  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 飯田庸太郎  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 橋口 収  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 田辺 誠  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 素野福次郎  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 力武 常次  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山崎 富治  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 塚本 三郎  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1987年1月 長岡 実  
 〓背中インバルの碑がある  
 〓経営の極意、自分流、のすすめ  
 〓実証考古学、古代の声を聞く

2月 梶井 健一  
 〓それはひとかけらの土器から始まった  
 〓清濁は合せ吞まず  
 〓県民本位、で尽くした二十年と現在

3月 館 豊夫  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 小林庄一郎  
 〓泥まみれのすすめ

5月 猪熊 時久  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 飯田庸太郎  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 橋口 収  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 田辺 誠  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 素野福次郎  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 力武 常次  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山崎 富治  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 塚本 三郎  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1988年1月 長岡 実  
 〓背中インバルの碑がある  
 〓経営の極意、自分流、のすすめ  
 〓実証考古学、古代の声を聞く

2月 梶井 健一  
 〓それはひとかけらの土器から始まった  
 〓清濁は合せ吞まず  
 〓県民本位、で尽くした二十年と現在

3月 館 豊夫  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 小林庄一郎  
 〓泥まみれのすすめ

5月 猪熊 時久  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 飯田庸太郎  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 橋口 収  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 田辺 誠  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 素野福次郎  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 力武 常次  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山崎 富治  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 塚本 三郎  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1989年1月 長岡 実  
 〓背中インバルの碑がある  
 〓経営の極意、自分流、のすすめ  
 〓実証考古学、古代の声を聞く

2月 梶井 健一  
 〓それはひとかけらの土器から始まった  
 〓清濁は合せ吞まず  
 〓県民本位、で尽くした二十年と現在

3月 館 豊夫  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 小林庄一郎  
 〓泥まみれのすすめ

5月 猪熊 時久  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 飯田庸太郎  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 橋口 収  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 田辺 誠  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 素野福次郎  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 力武 常次  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山崎 富治  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 塚本 三郎  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1990年1月 長岡 実  
 〓背中インバルの碑がある  
 〓経営の極意、自分流、のすすめ  
 〓実証考古学、古代の声を聞く

2月 梶井 健一  
 〓それはひとかけらの土器から始まった  
 〓清濁は合せ吞まず  
 〓県民本位、で尽くした二十年と現在

3月 館 豊夫  
 〓一防衛官僚の告白的行状記  
 〓天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く

4月 小林庄一郎  
 〓泥まみれのすすめ

5月 猪熊 時久  
 〓人生は雑話から始まった  
 〓鬼才、方円、を舞う  
 〓古巷で蘇生、大死一番のモニユメント

6月 飯田庸太郎  
 〓先人は樹を植える  
 〓西村の懐刀、がいま語る戦後私史

7月 橋口 収  
 〓日々コレ挑戦ス

8月 田辺 誠  
 〓我が行動の人生に悔いなし  
 〓それでもトキは青空を翔ぶ

9月 素野福次郎  
 〓野鳥の色でわかる日本列島の秘密

10月 力武 常次  
 〓デモクラティック・カンパニー、のすすめ

11月 山崎 富治  
 〓あるエンジニア経営者の記録  
 〓あくなき向上、に日々を賭けて

12月 塚本 三郎  
 〓わが青春の日々は……  
 〓漫々の好、を唇に弟妹を養い生きる

1986年9月	丸谷 金保	日計して足らず歳計して余りあり―そこに山ぶどうがあった。十勝ワイン奮戦記
10月	田川 誠一	いま振り返る苦難の。井戸掘り。―日中と政治倫理にかけた二十五年
11月	窪田 俊彦	お地蔵さま。が空を翔んだ―セズナ一機からスタート、運をつかむ
12月	宮岡 公夫	浮きつ、沈みつ。わが道を往く―落第六回、悲しむ母を見て一念発起
1987年1月	宇野 宗佑	春風鉄壁を貫く。―いま話そう中曽根政権誕生秘話
2月	山城 彬成	復興に燃えたわが青春の日々―青年会活動から、現場。を志願、日本鋼管へ
3月	高沢 寅男	焼け野原に平等を見た―良寛を愛する庶民政治家、寅さんの原点
4月	渡里杉一郎	未来が現在を規定する―莫妄想を胸に前向きに歩む人生の八〇％は運命である
5月	藤原 一郎	器量がそれを判断し自分のものにする
6月	鯨岡 兵輔	禍は得意に生ずる。―金と結びついてはいい政治はできない人の、かざしも。に立たず
7月	山岸 章	紛れ込み遅延。が本腰を入れて労働運動四十年
8月	渡部 恒三	絹ずれする人になれ。の母の言葉を胸に。―蓄音機で中野正剛の演説を聞き、運命の道歩く反骨の、やり直し人生
9月	土方 武	―農林省から住友へ、化学の世界にユメを賭けた
10月	川崎 寛治	人間が存在する政治。を目指して。―沖繩返還で佐藤総理と論陣を張る
11月	海部 俊樹	陽の当たらない場所に光を―六切れのスイカと河野金昇先生の不自由な足
12月	武宮 正樹	大宇宙。に遊ぶわが感性―生きたいように生き、打ちたいように打つ
1989年1月	田島 敏弘	我が生涯は、第二捕手。―補欠。には主人公を助ける喜びがある
2月	平松 守彦	ビッグ・バン(創造的破壊)に燃える。―オートバイで工場診断に飛び回った若き銀行野郎
3月	豎山 利文	私の「豊の国」づくり実践記―県は自ら助くるものを助く
4月	福岡 知之	日々新たななり。―分裂から再編―統一へ労働運動四十年を歩く
5月	米沢 隆	もともと地上に道はない、みんな歩いて道になる。―エネルギーの未来とその科学的選択
6月	北岡 徹	汝、海の如き男たれ(勝海舟)―身を持って体験した大衆は「愚にして賢」
7月	吉野 俊彦	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
8月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
9月	井出 太郎	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
10月	新関 欽哉	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
11月	岩村 英郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
12月	小山 五郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
1990年1月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
2月	深海 正治	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
3月	井出 太郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
4月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
5月	三田 勝茂	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
6月	北岡 徹	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
7月	吉野 俊彦	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
8月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
9月	井出 太郎	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
10月	新関 欽哉	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
11月	岩村 英郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
12月	小山 五郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
1990年1月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
2月	深海 正治	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
3月	井出 太郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
4月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
5月	三田 勝茂	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
6月	北岡 徹	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
7月	吉野 俊彦	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
8月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
9月	井出 太郎	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
10月	新関 欽哉	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
11月	岩村 英郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
12月	小山 五郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
1990年1月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
2月	深海 正治	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
3月	井出 太郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
4月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
5月	三田 勝茂	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
6月	北岡 徹	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
7月	吉野 俊彦	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
8月	伊藤 昌壽	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
9月	井出 太郎	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
10月	新関 欽哉	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
11月	岩村 英郎	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
12月	小山 五郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河

1990年8月	江田 五月	人生模様。を映す政治をめざして。―父の死、そのとき天命と狂気で決断した政界入り
9月	日下部悦二	「陽が昇るから、夜が明ける」―鉛筆を倒して決めた電気の道と、それから
10月	中尾 武	対話。が新しい価値を生む―人格、徳性をブラッシュアップした予科の。無監督テスト
11月	中川 志郎	いま生命の大切さを知る―動物と生きた四十年、自然との共存の夢を追う
12月	西岡 常一	木のいのち、木のころ―宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む
1991年1月	龍野 富雄	勘忍しーや。―戦後復興の木材輸入で味わった。地獄と天国。和顔愛語。に生きる
2月	永倉 三郎	記者志望が電力へ、勧誘や用地交渉に奔走した若き命の日々
3月	岡田 節人	生き物は方円の器に従う―実験好きの文学青年が迷い込んだ。絶妙。な細胞の世界
4月	相川賢太郎	人生感意気、巧名誰復論―つまらない仕事を誠実に早くやっけて掴んだ最後の勝利
5月	中尾 佐助	ヒマラヤに日本文明の源流を見た―アジア。照葉樹林文化。地帯を歩いた半生
6月	三宅 和助	「もぐら」の如く生きて……―外務省の異端児。が歩いたアジア、中東の裏側
7月	佐々木秀典	一視同仁
8月	加藤 紘一	民主主義の理念を求めて歩む親父と、違道
9月	阿部 謹也	飽くなき好奇心。を抱きつづけて。―中国共産党の研究から絵柄のないドラマ。の世界へ
10月	日高 敏隆	現代の深奥に中世がある―修道院体験からヨーロッパ社会史の研究へ
1993年1月	上山 保彦	面白くなれば科学じゃない―動物行動学の魅力といじわる人間観察
11月	横原 稔	私は逃げなかつた。―やましいことがなかつたからやり抜けた国鉄民営化
12月	今井 隆吉	失敗の記録。を残せ―モーターひと筋、平凡な人生。を変えた二つの転機
1992年1月	猪木 正道	「君子財を愛す、これをとるに道あり」―元東京っ子がいまアジア。関西経済圏を想う
2月	稲葉三千男	そこに。論理の美。があつた
3月	玉川 敏雄	「怠け者。が歩いた数学から経済学への道
4月	左藤 恵	かげがえのない人格。を求めて―河合栄治郎さんの筋金入りの自由主義に触れた
5月	西岡 武夫	成り行きに任せる勇氣―根っこに。少数派への共感。がある
6月	アリフィン・ベイ	道近しと雖も、行かざれば至らず―生死の境をさまよい、死んだ仲間の分まで生きて
7月	井之口章次	宗門に生まれ、誠即形。に生きる―かくして死刑に反対、法相のとき判を押さなかつた
8月	大森 安恵	平時の革命。をめざして―小学生のとき決断した政治への波瀾の道
9月	岡野加穂留	文化の架け橋に。時代へ。多様な国際社会。の時代へ
10月	秋山 富一	庶民の歴史。を求めて―柳田民俗学と出会い、日本人の他界観を研究する
11月	横原 稔	人の痛みがわかる医者として―天命。を得て、糖尿病と妊娠。に取り組む
12月	今井 隆吉	「真理」につながる日々を生きて―剣道。禪に培われた精神で日本の政治に挑戦
1994年1月	宇澤 弘文	巧詐は拙識に如かず
2月	山下 勇	若き日に海外で鉄を売りながら得た人生哲学
3月	篠原 一	「桃李言わざれども下自ら蹊を成す」―ロンドンに生まれ、バイリンガル経営者の新商社論
4月	西澤 潤一	いつも同じことをやってきた。―新聞記者、原子力、大使、いろいろやったけれども
5月	松谷健一郎	「正しい旗、堂々の陣」で進む―ベルーに生まれ、孫子に学んだチャレンジャー人生
6月	國弘 正雄	反りてこれを己に求む―初代科学アタッシェが取り組んだ原発。草創から今日まで
7月	林 海峯	海を畑にする夢を見た。―親友のひと言で電気の世界へ、原子力をライフワークにする
8月	中江 要介	世界を旅して……―源氏物語に魅かれ日本へ、そして出会った人々
9月	寺澤 芳男	「前例がないからやる。」―いいものづくりに燃える私は大根役者
10月	上原 康助	和して同ぜず、違つて犯さず―歴史に憧れた外交官が歩いた日ソ交渉の舞台裏
11月	齋藤 裕	「鉄の道」を往く―小手先でなく、原理原則にかえれ
12月	岩村 昇	「我れ七十にして矩を踏せず。」―納得しないで屈従はしない、私を支えた父の決断・母の一言
1994年1月	宇澤 弘文	「非連続」の中から新しい発想が生まれる
2月	山下 勇	ナイロン光合成法を発見、いま十年先の。札を貼る
3月	篠原 一	随処に主となれば立つ処真なり―「自覚・自助・自立」で打ち込んだ胃カメラ開発
4月	西澤 潤一	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
5月	松谷健一郎	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
6月	國弘 正雄	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
7月	林 海峯	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
8月	中江 要介	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
9月	寺澤 芳男	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
10月	上原 康助	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
11月	齋藤 裕	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
12月	岩村 昇	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
1994年1月	宇澤 弘文	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
2月	山下 勇	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
3月	篠原 一	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
4月	西澤 潤一	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
5月	松谷健一郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
6月	國弘 正雄	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
7月	林 海峯	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
8月	中江 要介	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
9月	寺澤 芳男	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
10月	上原 康助	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
11月	齋藤 裕	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
12月	岩村 昇	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
1994年1月	宇澤 弘文	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
2月	山下 勇	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
3月	篠原 一	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
4月	西澤 潤一	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
5月	松谷健一郎	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
6月	國弘 正雄	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
7月	林 海峯	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」
8月	中江 要介	誠を尽くす―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
9月	寺澤 芳男	終章に美を求めて―カメラ道楽と型破りの青春の日々
10月	上原 康助	逆境のとき、そこに鵜外がいた―虚無からの脱出。行、日銀三十余年の幾山河
11月	齋藤 裕	酬いることの未だ足らざる―理想を追い続けた政界四十年と、わが歌
12月	岩村 昇	いま、翔ぶが如く。―大内兵衛先生の。鎌倉命令。と「十二カ条の憲法」

1994年4月	山田 太一	一浪して得た人生最良の友人・伴侶・仕事   想像力の衰弱した社会でドラマを描き続けて：   『直感精説』を胸に心技を貫く   芸術的感動に通じる妙手の発見
5月	加藤一二三	『トウモロコシ・イズ・アナザーデイ』   新聞記者志望が、『通貨マフィア』と呼ばれて：   共に靴を脱ぎ、水に入る   父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
6月	行天 豊雄	特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ   己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて：   仕掛け人が語る四十年の政界秘話
7月	江尻宏一郎	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
8月	堀田 力	特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ   己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて：   仕掛け人が語る四十年の政界秘話
9月	田村 元	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
10月	亀谷 了	特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ   己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて：   仕掛け人が語る四十年の政界秘話
11月	石田 芳夫	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
12月	荻野 茂	特捜検事から転身、高齢者福祉の世界へ   己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて：   仕掛け人が語る四十年の政界秘話
1995年1月	金森 久雄	『白雲幽石』の精神で碁盤にのぞむ   最年少で本因坊、二十二年後には最年長記録を：   共生と民族の権利回復をもとめて四十年   経験の蓄積がひらめきを生む   戦後復興とともに歩んだ「強気エコノミスト」の軌跡   常に弱者と向き合って生きる   『人間の条件』のモデルが説く共生と公正の道   戦中の原始生活が教育観を変えた：   農民に学んだ「教育による野性喪失」   石の上にも『三十年』   野生動物研究に取り組む女性園長奮戦記
2月	隅谷三喜男	『砂の社会』で見つけた文化のリアリティ   モスクワで邂逅した父の縁でロシア研究の道へ
3月	大田 堯	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
4月	増井 光子	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
5月	袴田 茂樹	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
6月	秋岡 芳夫	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
7月	日野原重明	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
8月	中村 隆英	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
9月	矢口 高雄	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
10月	森下 洋一	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
11月	高野 悦子	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
12月	網野 善彦	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
1996年1月	江戸家猫八	『砂漠緑化』にかける86歳の生涯現役   砂漠緑化にかける86歳の生涯現役   『伸び伸びしじみ』と生きる   将棋も歌も「自在流」の人生哲学   縄文人にはわれわれより崇高な心があった   考古少年を魅了した土器の紋様、文化の起源   『のれん』のように生きる   被爆体験を越えて貫いた芸の道   生涯、志を貫く   絵が好きで、絵を描き続けて、九十三歳   プラス八の可能性を追う   敵のパイロットとの遭遇が生生の転機に   『路地裏』にこそ経済はある   庶民派エコノミストの原点   過去・現在・未来への責任   数学者から政治家へ、ヒロシマの心を世界に広げる   曲がった木は曲がったなりに使う   機能美を追求して半世紀   人が一マイル行けと言えば二マイル行く   延命の医療から有終の医療へ、八十五歳の最前線   実証の仕事が研究者としての方向を決めた   地味な商人の子から経済学の道へ   『道草』がボクの学校だった   銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
2月	吉井 淳二	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
3月	猿谷 要	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
4月	竹内 宏	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
5月	秋葉 忠利	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
6月	秋岡 芳夫	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
7月	日野原重明	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
8月	中村 隆英	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
9月	矢口 高雄	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
10月	山折 哲雄	『林住期』の知恵に学ぶ   老・病・死をめぐる生きた学問を求めて   僕は動物のことはかりやって来た   野生動物保護の最前線に立って：   すべてにコミットして生きる   思想遍歴のすえに掴んだ我が人生哲学   時代がボクに追いついた   『森流』ほんにやら人生の極意   ウイルスは薬を運ぶ宅配便   『遺伝子ワクチン』で究極の治療を：   不偏不党・厳正公平が検察の生命   『特捜の鬼』が語った戦後疑獄史   自然のままに行く   病氣遍歴の果てに得た、一本の道   落語も剣道も『万事素直』   長屋の暴れん坊が人間国宝に楽しきかな人生   仕事でも趣味でも可能性にチャレンジ   生きているかぎり、生きぬきたい   『生涯』を映画にかける八十五歳の情熱   歯は進化の覗き窓である   『二重構造モデル』で解く日本人の起源   『曖昧』のすすめ   魚の生態に見た競争と共存の原理   天命に任せて人事を尽くす   『社会人学校』で学んだ企業の社会的使命   女性として、映画人として、世界人として   十二歳の挫折と私のシネマライフ   百姓イコール農民ではない   公的文書が切り落とした歴史を叙述する
11月	内藤 國雄	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
12月	佐原 真	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
1997年1月	森 毅	時代がボクに追いついた   『森流』ほんにやら人生の極意   ウイルスは薬を運ぶ宅配便   『遺伝子ワクチン』で究極の治療を：   不偏不党・厳正公平が検察の生命   『特捜の鬼』が語った戦後疑獄史   自然のままに行く   病氣遍歴の果てに得た、一本の道   落語も剣道も『万事素直』   長屋の暴れん坊が人間国宝に楽しきかな人生   仕事でも趣味でも可能性にチャレンジ   生きているかぎり、生きぬきたい   『生涯』を映画にかける八十五歳の情熱   歯は進化の覗き窓である   『二重構造モデル』で解く日本人の起源   『曖昧』のすすめ   魚の生態に見た競争と共存の原理   天命に任せて人事を尽くす   『社会人学校』で学んだ企業の社会的使命   女性として、映画人として、世界人として   十二歳の挫折と私のシネマライフ   百姓イコール農民ではない   公的文書が切り落とした歴史を叙述する
2月	畑中 正一	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
3月	吉永 祐介	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
4月	牧 冬彦	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
5月	柳家小さん	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
6月	北岡 隆	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
7月	新藤 兼人	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
8月	埴原 和郎	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
9月	川那部浩哉	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
10月	森下 洋一	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
11月	高野 悦子	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
12月	網野 善彦	父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の『貿易人生』   検事をやって、『性善説』になった：
1998年1月	趙 治勲	『変化図』の多い人生を味わいたい   大三冠棋士が求め続ける囲碁の道   原始人に戻ろう   寄生虫博士が鳴らす日本人への警鐘   生まれて一秒後の宇宙を観測する   ニュートリノ天文学の創始者の夢   僕の原点は『屋根うらの絵本かき』   『まんしゅう母子地蔵』に託した引き揚げ体験   自然にさからつちやあいけない   創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』   日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
2月	藤田紘一郎	原始人に戻ろう   寄生虫博士が鳴らす日本人への警鐘   生まれて一秒後の宇宙を観測する   ニュートリノ天文学の創始者の夢   僕の原点は『屋根うらの絵本かき』   『まんしゅう母子地蔵』に託した引き揚げ体験   自然にさからつちやあいけない   創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』   日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
3月	小柴 昌俊	生まれて一秒後の宇宙を観測する   ニュートリノ天文学の創始者の夢   僕の原点は『屋根うらの絵本かき』   『まんしゅう母子地蔵』に託した引き揚げ体験   自然にさからつちやあいけない   創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』   日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
4月	ちばてつや	僕の原点は『屋根うらの絵本かき』   『まんしゅう母子地蔵』に託した引き揚げ体験   自然にさからつちやあいけない   創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』   日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
5月	春風亭柳昇	創作落語のトップランナーの『与太郎戦記』   日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
6月	大林 太良	日本文化の起源を求めて   神話から見た列島の巨視的古代史   あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
7月	河上 和雄	あえて「正義」を語る   元東京地検特捜部長の社会への警鐘   砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
8月	中村 紘子	砂漠の冒険家を夢見ていた   挫折を乗り越え国際的ピアニストに   目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
9月	松野 頼三	目のない碁盤のうえで碁を打ってきた   『寝業師』が見た戦後政治秘話
10月	島海 巖	会社だけが人生じゃない   過去を否定する勇氣と決断   映像が人々を変えた   老人福祉を振り続ける女性監督の目   縄文人はどんな夢を見たか？   『消えた社会』の文化人類学   『知力』の復権を求めて   教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡   『思考』を深める   FAXやEメールは研究の邪魔
11月	羽田 澄子	老人福祉を振り続ける女性監督の目   縄文人はどんな夢を見たか？   『消えた社会』の文化人類学   『知力』の復権を求めて   教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡   『思考』を深める   FAXやEメールは研究の邪魔
12月	小山 修三	縄文人はどんな夢を見たか？   『消えた社会』の文化人類学   『知力』の復権を求めて   教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡   『思考』を深める   FAXやEメールは研究の邪魔
1999年1月	有馬 朗人	『知力』の復権を求めて   教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡   『思考』を深める   FAXやEメールは研究の邪魔
2月	中根 千枝	『思考』を深める   FAXやEメールは研究の邪魔
3月	宮崎 勇	私の経済学は憲法とともにある   軍縮派エコノミストの戦後日本経済史   鏡は空想のための装置   人生のベースは小学生までにつくられた   宇宙の果てを見る   大望遠鏡計画にかけた天文学者の夢   本当は植物学者になったかった   祖父以来のリベリズムと反骨精神   免疫・自己・生命   『超システム』が持つ美しさ   と不気味さ   虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
4月	安野 光雅	鏡は空想のための装置   人生のベースは小学生までにつくられた   宇宙の果てを見る   大望遠鏡計画にかけた天文学者の夢   本当は植物学者になったかった   祖父以来のリベリズムと反骨精神   免疫・自己・生命   『超システム』が持つ美しさ   と不気味さ   虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
5月	小平 桂一	本当は植物学者になったかった   祖父以来のリベリズムと反骨精神   免疫・自己・生命   『超システム』が持つ美しさ   と不気味さ   虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
6月	福原 義春	本当は植物学者になったかった   祖父以来のリベリズムと反骨精神   免疫・自己・生命   『超システム』が持つ美しさ   と不気味さ   虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
7月	多田 富雄	『超システム』が持つ美しさ   と不気味さ   虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
8月	奥本大三郎	虫に学んだ人生   『ファール昆虫記』の完訳   に取り組む   『匹狼』で生きてきた   ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
9月	江崎玲於奈	ノーベル賞学者が説く創造力の育て方   大自然の『知』に学ぶ   変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
10月	常盤 文克	変化と共に生きる企業と経営   我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
11月	清家 清	我が人生はケ・セラ・セラ   理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
12月	藤原 正彦	理想の終の住処は鴨長明の方丈の庵   美しい定理と『もののあはれ』   数学者の目に映った日本の世紀末   人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
2000年1月	中坊 公平	人は泣きながら生まれてくる   歌を忘れていた債権回収の三年間   まだやる、生きてる限りやる   93歳、議員在職53年の政治と夢   『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
2月	原 健三郎	『スカイライン』をつくった男   自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
3月	櫻井真一郎	自動車職人の昭和伝説   いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
4月	ひろさちや	いい加減のすすめ   仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
5月	清岡 卓行	仏教が教える人間の生き方   一九四五年夏の大連   清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
6月	黒木 靖夫	清岡文学の原点と青春後期回想   イットア・ソニー・デザイン   日本の電子産業史とともに
7月	桂 文治	「お構いなく」   江戸言葉伝える『最後の嘶家』   サルの研究で人類史を復元する   『心』「社会」「進化」   『ジョウモネスク・ジャパン』   縄文の視座から現代を見る   蝶と分子人類学   科学者の「心」をえつつけて   憲法と日本人   現在の改憲論議に欠けているもの   自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
8月	伊谷純一郎	「お構いなく」   江戸言葉伝える『最後の嘶家』   サルの研究で人類史を復元する   『心』「社会」「進化」   『ジョウモネスク・ジャパン』   縄文の視座から現代を見る   蝶と分子人類学   科学者の「心」をえつつけて   憲法と日本人   現在の改憲論議に欠けているもの   自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
9月	小林 達雄	縄文の視座から現代を見る   蝶と分子人類学   科学者の「心」をえつつけて   憲法と日本人   現在の改憲論議に欠けているもの   自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
10月	尾本 恵市	蝶と分子人類学   科学者の「心」をえつつけて   憲法と日本人   現在の改憲論議に欠けているもの   自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
11月	樋口 陽一	科学者の「心」をえつつけて   憲法と日本人   現在の改憲論議に欠けているもの   自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
12月	海部 宣男	自分の中に宇宙がある   電波天文学が解く銀河・星・惑星・生命の進化   漁師のせがれが総理になった   村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
2001年1月	村山 富市	村山内閣の五六一日間の軌跡   神様のノート   安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志   新しい日本の進路選択のために   『よい歴史』と『悪い歴史』   『世界史の統一』的叙述をめざして   『子殺しの行動学』以後   霊長類学者が語るサルとヒトの生き方   僕の原点は『疎開中の挫折感』   『超楽観主義者』が見た日本の将来
2月	村上陽一郎	安全学と21世紀の科学・技術・社会   ファインダーの中に思想がある   写真家が見つめた昭和・平成の日本   『ガン遺伝子』発見！   在米37年間のスリリングな研究生活   宇宙ルネッサンスをめざして   カップからH-IIまでロケット開発50年   やせ我慢と政治の志 





2012年5月	赤崎 勇	独り荒野を行く ―青色LED開発の道のり ジブシーになりたい！ ―ケルトと日本は「世界の両耳飾り」
6月	鶴岡 真弓	二七札のDNAを探せ！ 落語とジャズと進駐軍 クラリネットに魅せられて 裸足の文化人類学者、 ソマリアに立つ 僕の「どこでもコンピュータ」 ―TORONからユビキタスへ アホウドリに会いに行く ―絶滅の危機を救った秘策 「歌う生物学者」の 隅っこの思想
7月	松村 喜秀	
8月	北村 英治	
9月	西江 雅之	
10月	坂村 健	
11月	長谷川 博	
12月	本川 達雄	
2013年1月	大鵬 幸喜	「柏戸関は泣いてましたよ」 ―良きライバルとの出会い 雪に打ち勝つ ―マイナスをプラスに変える富山人
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	歴史家に職人精神を 製造から創造へ ―「はやぶさ」を継ぐもの
4月	川口淳一郎	―「はやぶさ」を継ぐもの サンブルのない世界 ―電子楽器開発五十年
5月	梯 郁太郎	―電子楽器開発五十年
6月	塚本 勝巳	ウナギの謎を追う オレ、50年早過ぎたんだ ―大人アニメの草分け
7月	久里 洋二	我々はまだベートトヴェンを聴いていない カラスはスパー鳥類 ヒューマンなモダンイズム建築のために
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	宇宙百三十八億年の歴史のリアリティ
12月	上田 正昭	今に生きる古代の精神 ―島国史観を超えて 地図のない山をめざす ―チンパンジーという時間 「祈る平和」から「創る平和」へ ―極限的環境で探る生命史
2014年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
2015年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	
12月	上田 正昭	
2016年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
2017年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	
12月	上田 正昭	
2018年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	西垣 通	
5月	島 泰三	
6月	館野 泉	
7月	福田 康夫	
8月	菅野 泉	
9月	島 泰三	
10月	西垣 通	
11月	西村京太郎	
12月	村上 龍男	
2019年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	
12月	上田 正昭	
2020年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	西垣 通	
5月	島 泰三	
6月	館野 泉	
7月	福田 康夫	
8月	菅野 泉	
9月	島 泰三	
10月	西垣 通	
11月	西村京太郎	
12月	村上 龍男	
2021年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	
3月	秦 郁彦	
4月	川口淳一郎	
5月	梯 郁太郎	
6月	塚本 勝巳	
7月	久里 洋二	
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	
10月	横 文彦	
11月	松井 孝典	
12月	上田 正昭	
2022年1月	松沢 哲郎	
2月	明石 康	
3月	北里 洋	
4月	西垣 通	
5月	島 泰三	
6月	館野 泉	
7月	福田 康夫	
8月	菅野 泉	
9月	島 泰三	
10月	西垣 通	
11月	西村京太郎	
12月	村上 龍男	

対話

Table with columns for years (1968, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973) and months, containing names and dialogue text.

Table with columns for years (1973, 1974, 1975, 1976, 1977) and months, containing names and dialogue text.

1977年4月	新々中国からの「伝言」   両角さんの北京、上海、広州 みてある記 一九七七年・韓国   その実像と日本とのかわり 合いを追う 「日本への直言」   いまの世の中間違いだらけ 一九八五年ニッポンの原子 力を考える   日米経済人会議から帰って カーター経済外交の行方   アジアからニッポンへ の「直言」	両角 良彦 松岡 英夫 宇都宮徳馬 裏 東湖 和田 春樹 石川 昌 稲葉 修 太田 薫 M・J・サイデン 山野 正登 岩佐 凱実 原 康 大木 正吾 宮川 淑 松岡 弘治 大野 力 大野 弘治 松岡 英夫 宮川 淑 大木 正吾 倉成 正 瓜生 忠夫 岡部 冬彦 佐々木峻一 清水 潤三 清水 五月 江田 邦夫 鳩山 清 江崎 仁 宮崎 康 原 康 G・リングワルド L・サルモン 吉瀬 維哉 松岡 英夫 原 康 G・R・ベーカー J・L・マルカーン 稲葉 誠一 大石 武典 佐々木武典 高木 文雄 両角 良彦 江崎 清 K・デリバス 高橋 実	9月	人間の顔をした経済をつくる   福田経済採点簿公開 朝・毎・読論説責任者の訪中報告 鄭小平が語った日中の未来 日米貿易戦争の内幕 大統領の「誤算と修正」 「政治」は甦るか   劣化から信頼への道標	9月 10月 11月 12月	金森 久雄 堀 昌雄 上田 健一 加藤 祥二 岸田純之助 R・C・エンジェル 原 康 今津 弘 下平 正一 松野 頼三 大堀 弘 西澤憲一郎 牟田口義郎 牟田口俊夫 鳥羽嶺次郎 中山 一三 太田 薫 G・ヒールシャー 岸田純之助 陸井 三郎 法眼 普作 大木 正吾 山口 敏夫 I・オルリック 高橋 実 板橋 守邦 松田 忠雄 栗屋 敏信 本吉 庸浩 T・ベッパ 原 康 奥原 時蔵 野口悠紀雄 伊藤 圭一 今川 瑛一 江川 昌 アブドルハミド 坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベッパ 高木 文雄 中川 秀恭 江崎 清	
1978年1月	若大将「ニッポンの興亡」にチヤレンジ 「公共企業体」の神話と現実   危機のなかの国民のくらし 日・米・E.C記者の「眼」 がとらえた 世界経済戦争の「内幕」 〈現代官僚論〉	若大将 興亡にチヤレンジ 「公共企業体」の神話と現実   危機のなかの国民のくらし 日・米・E.C記者の「眼」 がとらえた 世界経済戦争の「内幕」 〈現代官僚論〉	12月	政界病棟から   体質蘇生への手がかりを探る 世界経済の「死角」を洗う   ソ連経済研究所副所長に きく OPPEC、メジャーの世界戦略 の照準―のし歩く地球の支配者   生活都市「創造」へのチャレンジ	5月 6月 7月 8月 9月	政界病棟から   体質蘇生への手がかりを探る 世界経済の「死角」を洗う   ソ連経済研究所副所長に きく OPPEC、メジャーの世界戦略 の照準―のし歩く地球の支配者   生活都市「創造」へのチャレンジ	
1980年1月	「財政危機」からの脱出   増税はホントに必要か？ ソ連はいま何を狙っているか   その世界戦略の方向と実態	10月 11月 12月	「財政危機」からの脱出   増税はホントに必要か？ ソ連はいま何を狙っているか   その世界戦略の方向と実態	1980年1月 2月	アメリカ一九八〇年の挫折   激動の中東情勢とPLO 日米エコノミストが探る   混乱からの脱出「の理論」   私八〇年代文明論	12月 1月 2月	「財政危機」からの脱出   増税はホントに必要か？ ソ連はいま何を狙っているか   その世界戦略の方向と実態
1981年1月	レオン大統領への 期待と不安   ASEAN同行三紙記者が 「内幕」を語る   日本国総理「裸の外遊記」の てんまつ いま中国で何が起きているか？   鄧体制をゆさぶる経済危機と 軍の動向 「新聞批判」に答える   日本の選択とジャーナリズム の責務   イラン・イラク戦争の証言① イラクはベルシャヤの「拡張主 義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン    バグダッドの陰謀だ！	12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月	レオン大統領への期待と不安   ASEAN同行三紙記者が「内幕」を語る   日本国総理「裸の外遊記」のてんまつ いま中国で何が起きているか？   鄧体制をゆさぶる経済危機と軍の動向 「新聞批判」に答える   日本の選択とジャーナリズムの責務   イラン・イラク戦争の証言① イラクはベルシャヤの「拡張主義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン   バグダッドの陰謀だ！	1981年1月 2月 3月 4月 5月 6月	レオン大統領への期待と不安   ASEAN同行三紙記者が「内幕」を語る   日本国総理「裸の外遊記」のてんまつ いま中国で何が起きているか？   鄧体制をゆさぶる経済危機と軍の動向 「新聞批判」に答える   日本の選択とジャーナリズムの責務   イラン・イラク戦争の証言① イラクはベルシャヤの「拡張主義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン   バグダッドの陰謀だ！		
1982年1月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿 易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」と その臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	1982年1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」		
1983年1月	「危機の時代」の宰相の条 件―中曽根外交で対米・ 欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」 になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の 「世界」	12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月	「危機の時代」の宰相の条件―中曽根外交で対米・欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の「世界」	1983年1月 2月 3月 4月 5月 6月	「危機の時代」の宰相の条件―中曽根外交で対米・欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の「世界」		
1984年1月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義 のゆくえ 若手ジャパノロジスト が衝く「日本の新聞報 道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン 極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を 読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く	12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義のゆくえ 若手ジャパノロジストが衝く「日本の新聞報道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く	1984年1月 2月 3月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義のゆくえ 若手ジャパノロジストが衝く「日本の新聞報道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く		
1985年1月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウォー ズ」ではない―レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつて いるか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」 が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む	12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯の未来 SDIイコール「スターウォーズ」ではない―レーガン「戦略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつているか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む	1985年1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯の未来 SDIイコール「スターウォーズ」ではない―レーガン「戦略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつているか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む		

1981年7月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿 易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」と その臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	1981年7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」
1982年1月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿 易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」と その臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」	1982年1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「新しい共存」の選択   企業主体で摩擦を回避しポジ ションを掴む レオン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」 アラブ産油国の「構造危機」とその臨界点 レオン氏への「不信」と「訣別」
1983年1月	「危機の時代」の宰相の条 件―中曽根外交で対米・ 欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」 になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の 「世界」	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「危機の時代」の宰相の条件―中曽根外交で対米・欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の「世界」	1983年1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「危機の時代」の宰相の条件―中曽根外交で対米・欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の「世界」
1984年1月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義 のゆくえ 若手ジャパノロジスト が衝く「日本の新聞報 道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン 極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を 読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義のゆくえ 若手ジャパノロジストが衝く「日本の新聞報道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く	1984年1月 2月 3月	「脱政治」の条件   この秋、与野党に起きること 米国の「アジア外交」の逆説   アキノ暗殺と民主主義のゆくえ 若手ジャパノロジストが衝く「日本の新聞報道の「矛盾」と「責任」 O・フェルトマン極東でいま何が起きているか？   米ソ「見えざる戦い」の実態 「第四次中東戦争」の暗雲   緊迫するレバノン情勢を読む 一九八四年「戦争」の臨界点   世界情勢は今年こう動く
1985年1月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯 の未来 SDIイコール「スターウォー ズ」ではない―レーガン「戦 略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見 たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつて いるか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」 が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯の未来 SDIイコール「スターウォーズ」ではない―レーガン「戦略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつているか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む	1985年1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月	「太平洋の世紀」はバラ色か？   新構想がはらむ危機と連帯の未来 SDIイコール「スターウォーズ」ではない―レーガン「戦略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ 大河原前駐米大使に聞く ワシントンでいま何が起こつているか 駐日E.C委員会代表に聞く 日本の「国際的孤立主義」が摩擦の原因だ ホルスト   握手する日 中曽根首相の「危険な選択」   防衛費増強は日本を蝕む



1993年5月	地方分権が日本を変える 知事が語る政治改革への戦略	長野 士郎 平松 守彦 川島 正英 伊豆見 元 関川 夏央 R・C・エンジェル 康
6月	北朝鮮はどこへ行くか？ 日本は最悪のシナリオに備えよ	伊豆見 元 関川 夏央
7月	真の政治改革は摩擦を解消する！ 「分水嶺に立った、外在依存国家」の命運	R・C・エンジェル 康
8月	政治はこう変わる！ 複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや、変革のラストチャンス 生活重視の政治と細川政権への注文	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治
9月		
10月	九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の「歪み」を糾す 日本の「コメ」は救えるか？ 壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が、最大のハードルになる 「チャイナ・ウォッチャー」が見た中国経済の実像 日本は、国連中主主義を選択した？ ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える	立山 良司 池田 明史 J・ヴィンケル ヘーフェル 山崎 博康 八田 達夫 落合 博実 森島 賢 唯是 康彦 平田 昌弘 高井 潔司 鴨 武彦 最上 敏樹
11月		
12月		
1994年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1995年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1996年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1997年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1998年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1999年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
2000年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
2001年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
2002年1月		
2月		
3月		
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
2003年1月		
2月		
3月		

1997年11月	日口関係の新たな方程式「K・O・サルキノフ」 朝鮮半島情勢の新展開を読む	袴田 茂樹 伊豆見 元 山岡 邦彦 猪口 邦彦 この五年間の政治は不毛だった―連立政権の功罪と21世紀への提言	早野 秀征 山崎 正和 松井 孝典
1997年12月			
1998年1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1999年1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
2000年1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
2001年1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
2002年1月			
2月			
3月			
4月			
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
2003年1月			
2月			
3月			



2011年6月	「非常時」の経済学 ―復興議論に冷静さを ―転換点迎えた米国の中東政策	飯田 泰之 久保 文 池内 恵 李 燦雨 三村 光弘 小川 和久	橋本 俊詔 泰之 文 恵 燦雨 光弘 和久
7月	北朝鮮経済の深層	池内 恵 李 燦雨	文 燦雨
8月	サイバー戦争と日本の危機管理	岸 博幸 山岡 邦彦 三國 陽夫	和久 樹 夫
9月	主権を封印した日本外交 ―ロシアのねらいと東アジア情勢 ―基軸通貨はなくなる？	山岡 邦彦 三國 陽夫 大崎 明子	樹 夫 子
10月	米国後の世界のリーダーシップ	細谷 雄一 中山 俊宏 鈴木 一宏	雄一 俊宏 一宏
11月	宇宙政策は国家の「名刺」	松浦 晋也 五味 洋治 李 相哲	晋也 洋治 相哲
12月	北朝鮮、真の実力者は誰か？ アラブに「春」は来たのか？	私市 正年 武市 隆司 若田部昌澄 阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆	正年 隆司 昌澄 智子 東彦 隆
1月	悲観論とたたかう 日本経済復活の道 中国の失われた十年	若田部昌澄 阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真 奈良岡聰智 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	昌澄 智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真 聰智 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
2月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもEUは存続する	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
3月	日銀はどこへ行くか？	窪園 博俊	博俊
4月	「人間の安全保障」 IPSの「次の壁」	米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
5月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
6月	サブプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
7月	「二つの錨」がはずれた中東	池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
8月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
9月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
10月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
11月	IPSの「次の壁」	米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
12月	サブプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
2013年1月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもEUは存続する	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
2月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？ それでもEUは存続する	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
3月	日銀はどこへ行くか？	窪園 博俊	博俊
4月	「人間の安全保障」 IPSの「次の壁」	米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
5月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
6月	サブプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
7月	「二つの錨」がはずれた中東	池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
8月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
9月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
10月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
11月	IPSの「次の壁」	米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
12月	サブプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
2016年9月	3万年前の航海を再現 ヒトは日本列島にどうやって 来たか	海部 陽介 関野 吉晴 武内 宏樹 池内 恵 青木 健太 笠井 亮平 鶴見 直人 長谷 直哉 吉川 洋 飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	陽介 吉晴 宏樹 恵 健太 亮平 直人 直哉 洋 泰之 賢 光生 真 亮 昌広 孝一
10月	独裁国家の仕組み	武内 宏樹 池内 恵 青木 健太 笠井 亮平 鶴見 直人 長谷 直哉 吉川 洋 飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	宏樹 恵 健太 亮平 直人 直哉 洋 泰之 賢 光生 真 亮 昌広 孝一
11月	アメリカと中国のはざま ―ロシア・トルコ・インド・ アフガンの戦略	池内 恵 青木 健太 笠井 亮平 鶴見 直人 長谷 直哉 吉川 洋 飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	恵 健太 亮平 直人 直哉 洋 泰之 賢 光生 真 亮 昌広 孝一
12月	人口減少下でいかに経済成長 するか	吉川 洋 飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	洋 泰之 賢 光生 真 亮 昌広 孝一
2017年1月	分断される社会と世界のゆくえ	飯田 泰之 西川 賢 古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	泰之 賢 光生 真 亮 昌広 孝一
2月	トランプ政権と米中関係	古賀 光生 川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	光生 真 亮 昌広 孝一
3月	少子高齢化社会の医療のあり方 ―これからの改革はトレードオフ になる	川島 真 佐橋 亮 上 昌広 川 孝一	真 亮 昌広 孝一
4月	政治家の役割とは何か？	小野寺五典 玉木雄一郎 早野 龍五 開沼 博 木村 榮一 都甲 幸治	五典 雄一郎 龍五 博 榮一 幸治
5月	3・11で問われた学問、 専門知の役割	早野 龍五 開沼 博 木村 榮一 都甲 幸治	龍五 博 榮一 幸治
6月	「隠れて生きるものは、よく 生きる」	木村 榮一 都甲 幸治	榮一 幸治
7月	中国の宇宙開発に見る 新たなグレートゲーム	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
8月	エネルギー・ゲームチェンジ ―日本が直面する課題 インフラ老朽化問題から構想 する新しい暮らし方 生命の起源	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
9月	エネルギー・ゲームチェンジ ―日本が直面する課題 インフラ老朽化問題から構想 する新しい暮らし方 生命の起源	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
10月	エネルギー・ゲームチェンジ ―日本が直面する課題 インフラ老朽化問題から構想 する新しい暮らし方 生命の起源	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
11月	日本の漁業 復活への道	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
12月	日本の漁業 復活への道	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
2018年1月	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てき たか？ ドイツ エネルギー政策転換の 背景	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
2月	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てき たか？ ドイツ エネルギー政策転換の 背景	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
3月	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てき たか？ ドイツ エネルギー政策転換の 背景	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男
4月	明治維新はどのように日本社会 を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てき たか？ ドイツ エネルギー政策転換の 背景	小原 凡司 小泉 悠 大場 紀章 竹内 純子 根本 祐二 小林 泰明 掛川 武 藪田 ひかる 小松 正之 片野 昭歩 月本 修一 長谷川修一 前田健太郎 村田 朋子 渡邊 理絵 早川 英男	凡司 悠 紀章 純子 祐二 泰明 武 ひかる 正之 昭歩 修一 修一 朋子 理絵 英男

2015年1月	人類七〇〇万年の道のり	窪園 博俊	博俊
2月	残されたオバマの二年間	梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	逸郎 伸之 博俊
3月	農業はだれのものか？	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
4月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
5月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
6月	日米同盟を本気で考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
7月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
8月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
9月	モディ首相でインドは変わる のか？	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
10月	「イスラーム国」に集まる人々	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
11月	サブサハラ・アフリカから考える 「国家の役割」とは何か	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
12月	残されたオバマの二年間	梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	逸郎 伸之 博俊
2014年1月	なぜボイジャーに パッパが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
2月	なぜボイジャーに パッパが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
3月	農業はだれのものか？	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
4月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
5月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
6月	日米同盟を本気で考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
7月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
8月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
9月	モディ首相でインドは変わる のか？	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
10月	「イスラーム国」に集まる人々	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
11月	サブサハラ・アフリカから考える 「国家の役割」とは何か	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
12月	残されたオバマの二年間	梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	逸郎 伸之 博俊
2015年1月	人類七〇〇万年の道のり	窪園 博俊	博俊
2月	残されたオバマの二年間	梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	逸郎 伸之 博俊
3月	農業はだれのものか？	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
4月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
5月	消費増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる ユーラシア地政学	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
6月	日米同盟を本気で考える	待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
7月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
8月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人 第一次世界大戦と私たちの今	阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
9月	モディ首相でインドは変わる のか？	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
10月	「イスラーム国」に集まる人々	渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	恒雄 俊宏 靖 真
11月	サブサハラ・アフリカから考える 「国家の役割」とは何か	川島 真 奈良岡聰智 渡邊 啓貴 梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	真 聰智 啓貴 逸郎 伸之 博俊
12月	残されたオバマの二年間	梅本 逸郎 中原 伸之 窪園 博俊	逸郎 伸之 博俊
2014年1月	なぜボイジャーに パッパが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
2月	なぜボイジャーに パッパが積まれているのか？ 金正恩体制の本当の姿	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真	智子 東彦 隆 明史 恵 聡史 庸介 明生 俊隆 隆 さやか 昌平 修 恒雄 俊宏 靖 真
3月	農業はだれのものか？	阿古 智子 黒田 東彦 白石 隆 池田 明史 池内 恵 待鳥 聡史 砂原 庸介 高原 明生 鈴木 俊隆 阿部 隆 小川 さやか 米本 昌平 金森 修 渡部 恒雄 中山 俊宏 渡辺 靖 川島 真</	